発表番号　１５　　香川大学教職大学院

研修と実践の往還を促進する小学校の若年教員研修の在り方　～校内研究授業を活用して～

高松市立国分寺北部小学校　教頭　　日吉　のり子

１　目的

本研究は、昨年度の実践研究で確認された、研修と実践の往還を促進する中学校の若年教員研修(以下、若年研)に必要な要素3つのうち、①実践を踏まえた振り返りをすること、②若年研対象者以外も巻き込むこと、が小学校の若年研でも有用なのか検証し、小学校の実態に応じた若年研の在り方を検討することを目的とした。また、本校では現職教育において全教員が参加する校内研究授業を年間6回実施しており、それを若年研に生かすことができるのではないかと考え、実践研究を行った。

２　方法

①実践を踏まえた振り返りをすること、②若年研対象者以外も巻き込むこと、の方策として、①－1研修直後の振り返り、①－２一定期間後の振り返り、②－1若年研だより、②－2先輩教員との対話、を実践した。評価は、若年研対象者及び先輩教員にアンケート調査と聞き取りにより行った。

３　結果・考察

①－１研修直後の振り返り

若年教員は、校内研究授業を参観して考えたことや気になったことについて整理して文章化する中で、自身の実践について省察をすることができたと思われる。

①－２一定期間後の振り返り

若年教員は、研修直後に考えていたことに取り組んで見つかった新たな課題について話し合ったり、他の若年教員の思いに共感したりしながら自身の実践を振り返った。それにより、若年教員が周囲の先輩教員にもっと尋ねてみようとする意欲を高めることにつながった。

②－１若年研だより

若年教員が輪番制で若年研だよりを発行し、全教職員に配付した。若年教員が校内研究授業を参観して考えた「これから自分にできること」を掲載したことで、先輩教員が若年教員の考えを理解することに役立った。

②－２先輩教員との対話

若年研だより等により若年教員の考えが可視化され、先輩教員との対話が促された。若年教員が先輩教員の様々な考えに触れる機会となり、若年教員の省察が深まったと考えられる。しかし、いつ、どれだけ、対話をするのかは、若年教員の自主性･主体性に委ねられる面が大きく、より対話を促す手立てが必要と思われる。

４　成果

⑴　研修と実践の往還を促進する若年研に必要な要素についての検証

有用性を検証した、①実践を踏まえた振り返りをすること、②若年研対象者以外も巻き込むこと、の2点はいずれも、小学校の若年研において必要な要素として確認された。

⑵　校内研究授業を若年研の題材として生かすことについて

本校では、校内研究授業の指導案を検討する事前研修会、公開授業、授業後の研究協議に全教員が参加している。そのため、若年研の内容を先輩教員に報告しなくても、若年教員が何をもとに「これから自分にできること」の考えをもったのかの理解が深まった。

５　課題

⑴　若年研の年間テーマの設定

校内研究主題に沿って行う校内研究授業を若年研の題材にしていたため、若年教員は研究主題に沿った視点での振り返りをするだろうと推察していたが、その視点は多岐に渡っていた。そのため、一定期間後の振り返りをする際に、若年教員同士で話し合う内容が定まらず、新たな改善策が出にくかったと思われる。振り返りの視点を明確にするために、若年研のテーマを設定すれば良いのではないかと思う。

⑵　定期的な振り返り

今年度の校内研究授業は、６月～７月に３回、11 月～１月に３回設定されている。このうち、前半の３回を今回の実践研究の対象とした。短期間に３回の研究授業を行ったため、一定期間後の振り返りは、３回の研究授業とその後の実践を踏まえて８月に行った。時間的には無理なく行うことができたが、定期的に振り返りの時間を設定することで、より若年教員の省察を深め、研修と実践の往還が促進されたのではないかと思われる。

６　引用文献

天野勝(2013)．これだけ！KPT．すばる舎リンゲージ